



秋田 正紀

松屋  
取締役会長兼取締役会議長

## デザインの持つ力

コロナ禍も落ち着き、最近の銀座は以前のようにラグジュアリーな街として活気を取り戻していますが、バブル崩壊後の1990年代後半の銀座は安売りショップの出店が目立ち、街のイメージは地に落ちていました。

そのような中、松屋は銀座店に併設されていた銀行跡地を取得したのを契機に、大リニューアルとともに耐震工事と外壁改修も行うという、まさに社運を賭けたプロジェクトを実施し、私はその責任者として、銀座にふさわしいデパートづくりを目指しました。

実際に工事がスタートするとたくさんの難題に遭遇しましたが、中でも頭を悩ませたのが外壁工事のための仮囲いでした。銀座通りは国道のため、工事囲いに広告を出したり、オープンの告知を行ったりすることは一切禁じられており、お店が営業中であることや、2001年のオープンに向けての期待感をあおることができません。そこでアイデアを出してく

れたのが、後に店舗空間や宣伝に携わってもらうグラフィックデザイナーの原研哉さんです。

幅100メートル、高さ5メートルの巨大な白い仮囲いの壁に、最初は閉じているジッパーを配し(写真①)、その後、時期に応じて仮囲いごと絵を移動し(同②)、まるで少しずつジッパーが開いていくように見せました。このジッパーはリニューアルコンセプトの「ファッション」を象徴しており、これによって、銀座通りを通る人にリニューアルへの期待感を大いに膨らませることができました。

このときが、私にとって「デザイン」との出会いであり、デザインの持つ力の大きさを認識した瞬間でした。

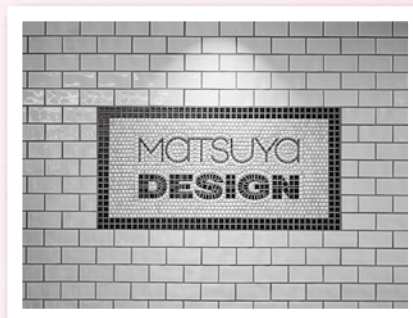
この経験が、2019年に社長として創業150周年を迎える際に、あらためて「デザインの松屋」を宣言することにつながり、その思いをいつまでも忘れないように、地下鉄入口の壁に「MATSUYA DESIGN」の文字をタイルで刻みました(同③)。



写真①



写真②



写真③